

挨拶状

校 長 武井 正明

新年度が始まって、4月も第4週、下旬となった。

先日は長岡附属中に御栄進された川田教頭先生から、丁寧な挨拶状が届いた。

我が家でも昨年から年賀状仕舞いを始めた。色々と理屈をつけるが、つまりは面倒くさいのである。ただ、この面倒で手間がかかるからこそ、伝わるものも、ある。

私の人生を救って下さった、大学時代の大恩人は、多くの言葉を私に遺していかれた。

「探している本に出逢えないのは、思いが足りないからです。本当に強い思いがあれば本の方から勝手に来てくれます。それはいろんな物事にも通じることです」

「葉書や手紙の返事は、必ず、できるだけ早く書きなさい。忙しければ走り書きでもいい。その時の自分の気持ちを素直に表したものをすぐに送りなさい。それは信用に繋がります。どんな丁寧な返事でも時間が経って、忘れた頃に届くようではいけません」

この二つは特に、ずっと心に置いている言葉だ。だから、願い事が叶わないのは、思いが足りないからだと考えている。強い思いを抱き続ければ、大抵のことは叶うものだ。

数多く戴いていた葉書や手紙の中で、忘れられないのが岩室中時代に仕えた、故 堀豪校長先生からの葉書だ。

堀先生からの、私の挨拶状の返事が来る時期は、他の方のそれよりも遅い。

異動して、新しい勤務地にやっと慣れ、でも緊張が解けた分、疲れも出てくる丁度この4月下旬頃に、堀先生からの葉書が届くのである。

こういうのが、本当の心遣い、というのであろう。私にはこれが今もできない。忘れてしまうのがこわいからだ。疲れが出てき始めた頃に届く、堀校長からの、愛情と期待を込められた葉書は、心に沁みた。そして、その度に、いつも力を貰えたのである。

吉中卒業生の皆さん、新しい高校生活はどうですか？

うまくいっている人はそのまま元気に、欲張っていろんなことに挑戦してください。そして、今しかない青春時代を楽しんでください。

なかなかうまくスタートできなかった君、力みすぎないこと。自分を大きく見せる必要はない。肩の力を抜いて無理せず、ありのままの自分でやればいい。気の合う人は、必ず見つかるはずだ。

そしてちょっと行ってみようかなと思ったら、いつでも校長室に顔を出してください。

いつでもお待ちしておりますよ。